

## 4. 鉄道施設の概要

### (1) 線形

- ・ 立野から高森にかけて阿蘇山麓を登ることから、全線にわたって上り勾配が続く線形となっている。
- ・ 最大勾配は 25% であり、長陽～白水高原間を除く各駅間の標準勾配も 25% となっている。
- ・ 最小曲線半径は 300m である。

### (2) 構造物

- ・ 立野～長陽間にトンネルが 2 箇所存在し、その延長はそれぞれ 125m 及び 904m である。
- ・ また、立野～長陽間に主要な橋梁が 2 箇所（立野橋梁及び第一白川橋梁）存在する。

### (3) 踏切・信号保安装置

- ・ 線内に合計 30 箇所の踏切が設置されており、大部分が第 1 種踏切である。そのほか、第 3 種が 2 箇所、第 4 種が 3 箇所ある。
- ・ 全線単線であり、閉塞方式は特殊自動閉塞が用いられている。

### (4) 駅（ホーム）

- ・ いずれの駅もホーム長 50m が確保されている。
- ・ ホーム高は、車両ステップとの段差解消のために嵩上げ工事が実施されており、各駅ともに 850mm を基準に施工されている（立野駅は 830mm）。
- ・ ホーム離れは、1485mm を基準に施工されている。

#### ※ 踏切の種別

第 1 種踏切：警報機と遮断機が設置されている踏切

第 3 種踏切：警報機のみ設置されている踏切

第 4 種踏切：警報機も遮断機も設置されていない踏切

※ 特殊自動閉塞：単線区間において行き違い駅の間をひとつの閉塞区間と見なし、その両端駅に設置される軌道回路（信号機を作動させるシステム）により閉塞区間への列車の進入を制御する列車保安の方式（p.33 参照）。

※ ホーム離れ：軌道中心からホーム端部までの距離

図 線路諸元及び信号保安設備概要

